

答 開所時間については、通常の営業時間としての設定であり、「看取り」や緊急で容態が急変した方に関しては、24時間365日対応する予定としている。

問 事業の実施区域が八幡浜・大洲医療圏の全域になっているが、どのくらいの申込を受け入れる考えか。

答 主に大洲市・内子町を中心に訪問看護の実施を想定しており、西予市や八幡浜市、伊方町については、大洲病院に通院されている方が訪問看護を求められた場合に対応したいと考えている。受け入れ数としては、現在大洲病院が他の訪問看護ステーションに依頼している介護保険を利用した訪問者約30人の受け入れを考えており、今後は50人程度まで拡大していきたいと考えている。

問 訪問看護を実施することで病院経営にとってどのようなメリットがあるのか。

答 新規事業ということで会計年度任用職員1名の雇用やシステム導入、車両購入などの一時的な経費は生じるが、運営費のほとんどが人件費であり、配置する看護師は病院職員で対応できるため負担は抑えられる。訪問看護ステーション単独の会計では赤字も想定されるが、病院事業全体で見ると収益増となり、病院経営の安定化につながるものと考えている。

要望 訪問看護のニーズは今後益々高まり、看護を行う側の負担も大きくなるものと思われる。過度な労働によって、そこに携わる人が疲弊しないような人員配置にも心掛けていただきたい。

◆請願第8号 学校給食の無償化を求める請願

趣旨 子どもの貧困増大や食材などの物価高騰を背景に、自治体による学校給食への補助制度が広がる一方、給食費を引き上げざるを得ない自治体も増えていることから、教育の一環である学校給食を国の責任において無償化するため、政府及び関係機関に意見書を提出することを求める趣旨の請願。

意見 賛同できる部分もあるが、物価高騰による一時的な措置ではなく、継続的な支援策となるよう、国の責務においてしっかりと議論を行うべきと考えるところから、不採択が妥当である。

今の子育て環境に関わる政策には、私立高校の授業料や医療費に関することなど個別に議論がされて

いるが、子どもは社会で育てるという大きな枠組みの中で考え、その政策の中で給食費についても検討すべきと考えるので、この請願は不採択としたい。

学校給食の費用を家庭が負担することは、家庭が食材や内容についてしっかりと関わりを持ち、監視する役割もある。無償化することにより、家庭の関与が薄まる懸念もぬぐえないため、不採択としたい。

無償化における議論の中には公立学校や私立学校に通う子どもたちへの支援が不透明なままである。仮に公立だから無償、私立だから有償では、子育て支援としての差別化につながる恐れがある。また、不登校児童生徒への議論もなく、悩みを抱え学校に行くことができない子どもを持つ家庭において、自宅で食事を取る場合は支援が行き届かない。これらの視点に目を向けず、単に無償化を進めることには抵抗を感じるので、不採択が妥当と考える。

審査結果 不採択

産業建設委員会 委員長 安川 哲生

《令和5年度大洲市一般会計補正予算》

◆訪日外国人旅行者受入環境整備事業について

説明 観光施設におけるトイレの高機能化及び洋式トイレへの改修工事を実施することで、インバウンドの受け入れ環境を整備するもの。

問 トイレの使い方の多言語化について、具体的にどのような表示内容になるのか。

答 これまでは文字中心の表示が多かったが、今回イラストを加え、日本語、英語、韓国語、中国語での説明を表示する。内容としては、トイレトーパー以外のものは流さないでください、トイレ使用後は水を流してください、といった内容の説明書きを見やすい位置に掲示する予定である。

問 観光施設におけるトイレの洋式化を今後別施設にも広げていく考えはあるか。また、国の補助は今後も引き続きあるのか。

答 他の観光施設でも和式トイレが若干残っているため、今後計画的に改修していきたい。国の補助が今後あるかどうかについては調査しているところであるが、市の単独であっても順次洋式化を図って